

令和6年度小平市立小平第九小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

話すこと・聞くことの領域については、正答率が全国平均を4.6ポイント上回っていた。

言葉の特徴や使い方に関する事項についての問題の正答率は、全国平均を1.7ポイント下回っていた。

物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめる問題では、無回答率が16.2ポイントであった。

人物像や物語の全体を捉えたり、表現の効果を考えたりする力を育んでいくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

読むことの領域の学習において、本文中に根拠となる部分を見つけながら、自分の考えを書く活動を行っていく。根拠を明確にすることで、自信をもたせ、自分の考えを書くことに前向きに取り組めるようにする。

I C Tを活用することで、本文を書き写したり、抜き出したりする負担や時間を軽減し、内容を理解したり、自分の考えをまとめたりする活動に重点的に取り組むことができるようにする。

【算数】

状況の分析

課題

数と計算の領域については、都平均を9.2ポイント上回る正答率だった。

思考・判断・表現の観点では、全国平均に対し、正答率が8.7ポイント上回っていた。

円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さを求める問題が、都平均より2ポイント下回っていた。

学んだことを活用して学習をすすめていく活動を、意図的計画的に行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

展開図を描いて円柱をつくる場面では、側面の縦横の長さがどれくらいになるのかに加え、なぜ、その長さになるのか、数値の根拠を考えさせる活動を行う。

普段の授業から、答えを求める考え方を全体で確認したうえで適用問題を児童に解かせて、「どの考え方を使って問題を解いたのか」を指導者が価値付け、学習した内容を活用していくことを意識させていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

これまでの授業でICT機器をどの程度活用しているかという質問で全国平均を22.6ポイント上回った。ICT機器の活用方法で「分からないことがあったらすぐ調べている」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という質問でそれぞれ、全国平均を10.2ポイント、16.8ポイント上回った。(いずれも特に肯定的な選択肢を選んだポイント数。)

これまでの授業で「自分の考えを発表する際、資料や文章を工夫している」という設問で11.1ポイント、「分からないことがあったとき、自分で学び方を考えたり工夫したりする」という設問で11.4ポイント、それぞれ全国平均から下回っていた。これらの結果より、ICT端末を活用することで学習方法の幅が広がっている一方、児童が自ら学び方を調整することがまだまだ難しい実態があるといえる。

学校で取り組む具体的な改善策

分からないことがあったら調べたり、意見を友達と共有したりすることを肯定的に捉えていることから、知的好奇心が高いことがわかる。そこで、授業内で学習内容をただ学ぶのではなく、学び方を児童に考えさせる時間を意図的に設定していくことで、児童が自ら学びを調整する力を身に付けさせる。学び方を児童が身に付けることで、それらを家庭学習等に転用させることができ、学力の向上につなげることができる考える。